

(別添)

社会福祉法人 仁生社  
江戸川病院  
公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定

【江戸川病院の基本情報】

医療機関名：社会福祉法人 仁生社 江戸川病院

開設主体：社会福祉法人 開設者 理事長 加藤 正弘  
地域医療支援病院（平成21年10月30日承認）

所在地：〒133-0052  
東京都江戸川区東小岩2-24-18  
TEL03-3673-1221

許可病床数：

（病床の種別） 一般病床418床

（病床機能別） ①高度急性期 11床  
②急性期 363床  
③回復期 44床

稼働病床数：

（病床の種別） 一般病床418床

（病床機能別） ①高度急性期 11床  
②急性期 363床  
③回復期 44床

診療科目：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、外科、心臓血管外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、リハビリテーション科、放射線科、小児科、皮膚科、麻酔科、糖尿病内科、腫瘍血液内科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、形成外科（24診療科）

職員数：

- ・ 医師
- ・ 看護職員
- ・ 専門職
- ・ 事務職員

○従事者数	(人)		(人)
医師	92.5	診療放射線技師	45.0
薬剤師	24.0	臨床検査技師	29.0
看護師(保健師含む)	352.3	臨床工学技士	11.0
准看護師	20.8	管理栄養士	5.0
看護業務補助者	55.6	その他の技術員	5.0
理学療法士	23.0	医療社会事業従事者	7.0
作業療法士	10.0	事務職員	117.1
言語聴覚士	7.0	その他の職員	13.0
* 非常勤職員は常勤換算にて計算。		合計	817.3

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

③ 医療資源の状況等

I 病床数 (床)

一般病床		療養病床		参考 (床)		
病院	診療所	病院	診療所	精神病床	感染症病床	結核病床
6,800	531	1,159	15	165	10	50

II 主な入院基本料等別病床数(平成26年度病床機能報告より) (床)

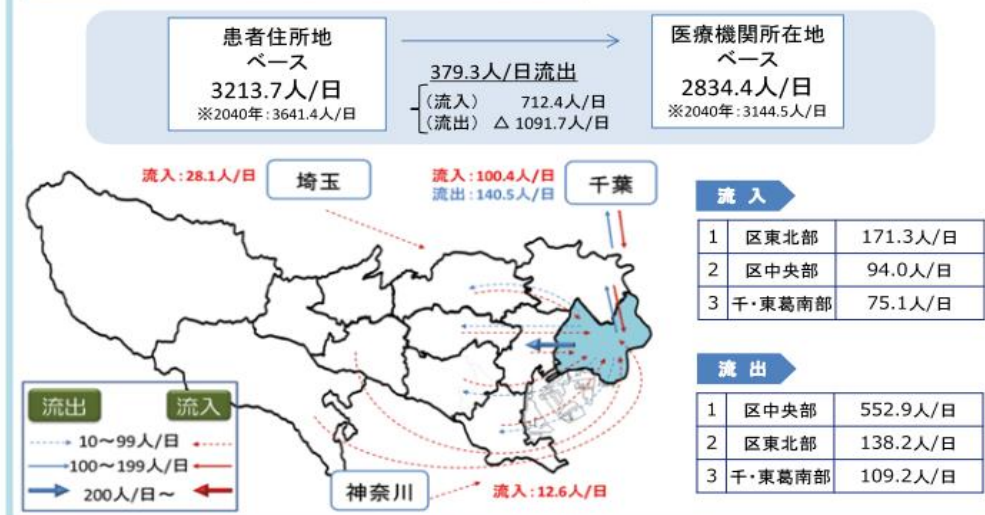
区東部の届出状況	病床数	区東部 人口10万対	都内 人口10万対
特定機能病院一般病棟入院基本料	651	45.4	97.2
一般病棟7対1入院基本料	3,026	211.2	251.4
一般病棟10対1入院基本料	1,259	87.9	95.1
一般病棟13対1入院基本料	299	20.9	20.0
一般病棟15対1入院基本料	452	31.6	25.5
療養病棟入院基本料 ※1	800	265.9	456.1
療養型介護療養施設サービス費 (介護療養病床として使用) ※2	150	49.8	101.5
障害者施設等入院基本料	191	13.3	30.9
特殊疾患入院医療管理料/入院料	0	0.0	2.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	414	28.9	40.7
地域包括ケア病棟入院料/管理料	94	6.6	3.7
緩和ケア病棟入院料	45	3.1	3.7

※1は医療療養病床、※2は介護療養病床と読み替え。いずれも、人口10万対病床数は、高齢者人口を使用

(7) 区東部

急性期機能

2025年推計患者数と流出入の状況



第3章

江戸川区の世帯数と人口(H29年10月1日現在)

世帯数 338,264世帯、人口695,403人 直近でも人口増加の区である。

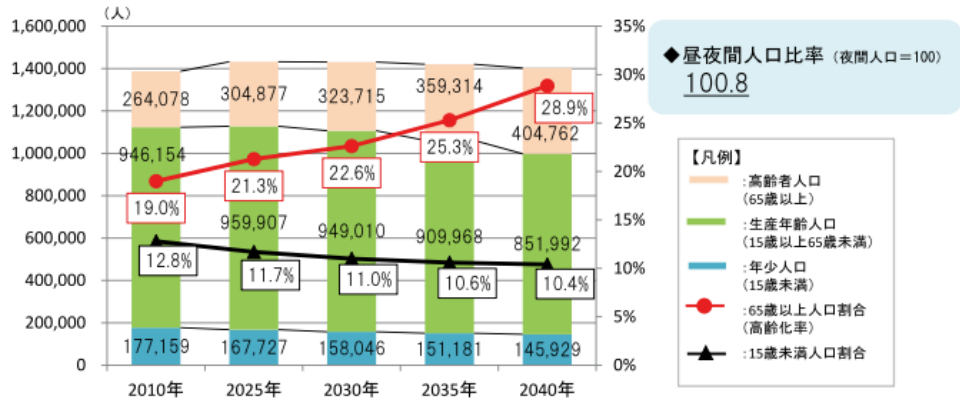
区東部の中で、江戸川区は、400床以上規模の急性期を担う病院は、2病院。

他の医療圏または、区や隣接千葉県への流出が多いと考えられる。

② 構想区域の課題

第3章

② 2010年から2040年までの人口・高齢化率の推移



◆高齢者のみ世帯の状況 (2010年)

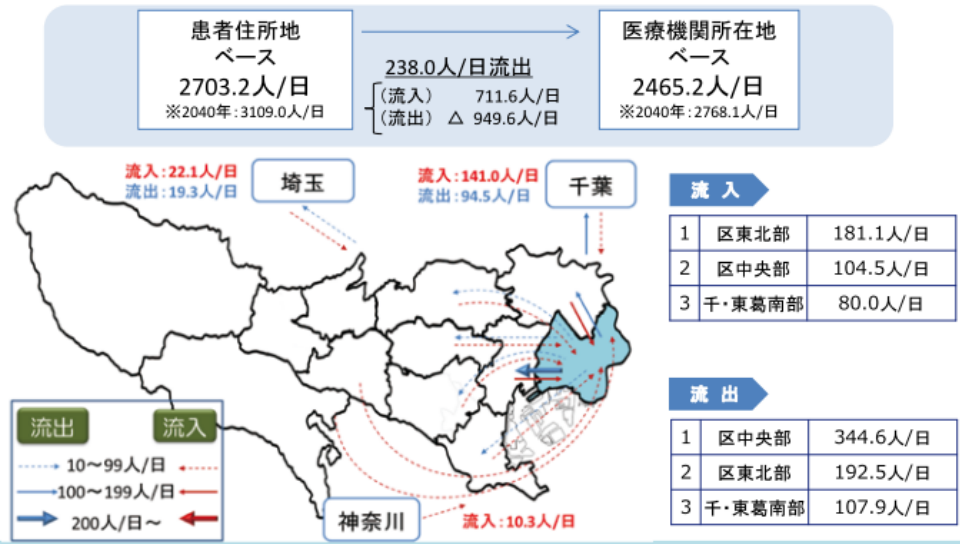
高齢者単独世帯数 (全世帯に占める割合)	58,379世帯 (9.1%)
高齢者夫婦世帯数※ (全世帯に占める割合)	45,692世帯 (7.2%)

※夫65歳以上、妻60歳以上

第3章

回復期機能

2025年推計患者数と流出入の状況



区東部の二次保健医療圏の中で、人口増加傾向の江戸川区においては、急性期だけでなく、回復期、地域包括ケア、及び緩和ケア病棟等の後方支援を担う病院が高齢化率が高まる将来区域地域完結型の構想において、江戸川区は、計画と現状・現実との大きな乖離が発生する可能性が予想されます。

### ③ 自施設の現状

許可病床数：418床、病床区分：一般病床418床

一般7対1入院基本料：363床、ICU：11床、回復期リハビリテーション病棟：44床

#### ○江戸川病院の基本方針

「当院は東京都区東部の中心的医療機関として地域医療に貢献すべく努力する。」

- 1、「みんなのしあわせとおもいやり」をモットーに高い倫理性を確立する。
- 2、患者様の権利を尊重し、患者中心の医療体制を確立する。
- 3、地域の中核的医療機関として24時間二次救急医療の充実に努める。
- 4、急性期病院として医療の進歩を具体化し、高度の医療を提供する。
- 5、予防医療とリハビリ部門を強化し、患者のQOLの向上を図る。
- 6、医療と福祉の間で困窮する人々にセイフティーネットを提供する。

#### ○患者数等実績

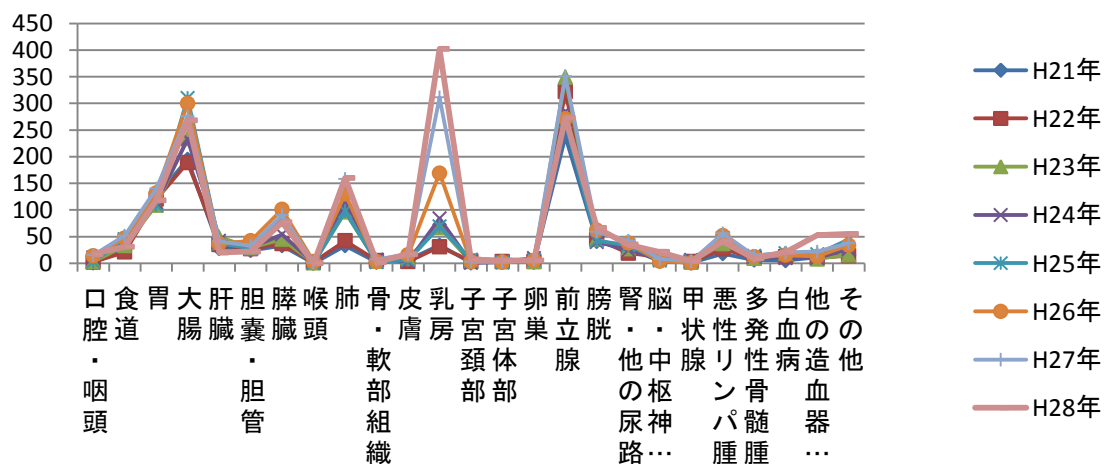
		平成26年度		平成27年度		平成28年度		昨年度比較
入院患者数	延患者数	124,887	人	125,729	人	126,407	人	678
入院患者数	1日平均	342.2	人	343.5	人	346.3	人	2.8
新入院患者数	年間合計	8,331	人	8,632	人	8,540	人	-92
退院患者数	年間合計	8,312	人	8,640	人	8,513	人	-127
平均在院日数	一般病棟	13.5	日	13.2	日	13.4	日	0.2
病床稼働率(全病棟)	年度指数	88.9	%	88.7	%	88.5	%	-0.2
外来患者数	延患者数	76,376	人	83,532	人	74,330	人	-9,202
外来患者数	1日平均	284.5	人	311.7	人	277.4	人	-34.3
救急車搬送患者数	年度合計	4,879	人	5,327	人	5,000	人	-327
救急外来患者数	年度合計	13,115	人	13,760	人	13,361	人	-399
紹介率	年度指数	74.6	%	73.4	%	73.5	%	0.1
逆紹介率	年度指数	105.5	%	99.8	%	96.9	%	-2.9

許可病床数平成23年9月6日付にて50床増床の418床で運営。その後入院稼働率は、88%を推移。入院患者数は、順調な推移で運営されている。但し、診療科の増設等の関係で平均在院日数が若干延びてきているところもある。経営状況は、良好である。医業収益も安定。下記の6頁がん登録資料の通り、がん疾患の患者数は、増加している。

江戸川病院の院内がん登録

1、がん登録 部位別推移 (H21年よりがん登録開始)								単位： 件
	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
口腔・咽頭	1	2	3	11	3	14	15	17
食道	27	21	33	42	45	47	52	31
胃	125	120	109	114	109	132	140	118
大腸	195	189	234	233	310	300	276	268
肝臓	28	35	49	42	37	37	41	20
胆嚢・胆管	24	27	29	29	28	42	33	22
膵臓	33	37	45	54	85	101	90	77
喉頭	0	2	1	1	1	3	1	0
肺	33	42	96	114	98	130	158	160
骨・軟部組織	2	5	4	7	2	3	7	2
皮膚	6	3	10	3	6	16	17	17
乳房	34	31	67	84	69	169	311	402
子宮頸部	1	4	3	1	7	3	3	7
子宮体部	2	3	3	2	2	2	3	5
卵巣	2	3	3	10	6	5	7	5
前立腺	238	322	349	285	266	271	351	273
膀胱	41	45	45	40	42	62	59	66
腎・他の尿路	28	19	27	25	34	38	42	35
脳・中枢神経系	4	12	9	8	5	4	8	21
甲状腺	1	3	2	6	4	1	4	4
悪性リンパ腫	18	27	37	47	47	52	56	41
多発性骨髄腫	6	10	9	12	14	12	14	9
白血病	5	12	18	10	19	15	20	21
他の造血器腫瘍	11	10	8	10	17	13	22	53
その他	15	14	16	26	45	34	38	55
合計	880	998	1,209	1,216	1,301	1,506	1,768	1,729

過去8年間 部位別推移



#### ④ 自施設の課題

平成27年度実績													12ヶ月		
年月	H27.04	H27.05	H27.06	H27.07	H27.08	H27.09	H27.10	H27.11	H27.12	H28.01	H28.02	H28.03	年間合計	月平均	1日平均
救急車搬送患者数	385	363	433	504	525	430	435	414	484	468	446	440	5,327	443.9	14.6
上記よりの入院患者数	121	109	111	137	147	118	130	112	133	129	120	130	1,497	124.8	4.1
救急車より入院率	31.4%	30.0%	25.6%	27.2%	28.0%	27.4%	29.9%	27.1%	27.5%	27.6%	26.9%	29.5%	28.1%	28.1%	28.1%
救急隊より依頼要請件数	508	456	535	626	641	570	550	534	627	637	591	571	6,846	570.5	18.7
救急車搬送受入実績率	75.8%	79.6%	80.9%	80.5%	81.9%	75.4%	79.1%	77.5%	77.2%	73.5%	75.5%	77.1%	77.8%	77.8%	77.8%
救急車受入不可件数	123	93	102	122	116	140	115	120	143	169	145	131	1,519	126.6	4.2
平成28年度実績													12ヶ月		
年月	H28.04	H28.05	H28.06	H28.07	H28.08	H28.09	H28.10	H28.11	H28.12	H29.01	H29.02	H29.03	年間合計	月平均	1日平均
救急車搬送患者数	409	419	388	428	455	409	419	423	446	453	363	388	5,000	416.7	13.7
上記よりの入院患者数	117	131	107	101	119	127	146	117	139	132	106	120	1,462	121.8	4.0
救急車より入院率	28.6%	31.3%	27.6%	23.6%	26.2%	31.1%	34.8%	27.7%	31.2%	29.1%	29.2%	30.9%	29.2%	29.2%	29.2%
救急隊より依頼要請件数	544	561	520	567	570	556	556	545	605	659	547	559	6,789	565.8	18.6
救急車搬送受入実績率	75.2%	74.7%	74.6%	75.5%	79.8%	73.6%	75.4%	77.6%	73.7%	68.7%	66.4%	69.4%	73.6%	73.6%	73.6%
救急車受入不可件数	135	142	132	139	115	147	137	122	159	206	184	171	1,789	149.1	4.9
													救急車：昨年度比較(月平均)⇒(十一)		
													-27.3(人)		
平成29年度実績													6ヶ月		
年月	H29.04	H29.05	H29.06	H29.07	H29.08	H29.09	H29.10	H29.11	H29.12	H30.01	H30.02	H30.03	年間累計	月平均	1日平均
救急車搬送患者数	360	359	390	373	376	324							2,182	363.7	11.9
上記よりの入院患者数	111	114	126	99	99	93							642	107.0	3.5
救急車より入院率	30.8%	31.8%	32.3%	26.5%	26.3%	28.7%							29.4%	29.4%	29.4%
救急隊より依頼要請件数	507	469	498	533	514	429							2,950	491.7	16.1
救急車搬送受入実績率	71.0%	76.5%	78.3%	70.0%	73.2%	75.5%							74.0%	74.0%	74.0%
救急車受入不可件数	147	110	108	160	138	105							768	128.0	4.2
救急車搬送患者数昨年同月比較	-49	-60	2	-55	-79	-85									
*(参考)救急車：過去月間最多1630件(H23.08)、年度実績最多1,573件(H23年度)													救急車：昨年度比較(月平均)⇒(十一)		
													-53.0(人)		

#### ・救急車搬送受け入れ体制の強化

平成23年に418床へ増床後、平成23年度の救急車受け入れ件数実績は、5,573件であったが、ここ3ヶ年度は救急車の受け入れ件数が減少してきている。特に今年度上半期は、大幅な減少となっており、受け入れ実績率は、要請件数に対して74%と減少している。

理由は、満床、他の患者対応中、専門医不在時間等になっておりますが、病床稼働率増加と救急医療の提供・確保は比例して、ベッドコントロール等の運営上での改善努力課題として再確認する必要課題となっております。

尚、救急隊よりの依頼要請件数の減少につきましては、検証中です。

#### ・看護職員確保及び離職率の問題

○看護職員満足度調査の実施
・実施日平成28年7月5日～7月22日
・調査方法：アンケート方式
・回収率：81.5%
・調査集計報告：平成28年8月26日
・結果：総合評価10段階の全体平均5.4
勤労意欲5.8、組織制度5.3、社会性4.7

少子化に伴い、看護職員の確保が病院経営での一番の問題及び採用費等も含めた経費・人件費等が経営上の大きな課題となっております。規模が大きくなればなるほどマンパワーは必要となりますので、都道府県単位・二次保健医療圏・隣接地域エリアでの争奪戦が激化することが予想されます。

上記、看護職員満足度調査につきましては、毎年度実施しておりますが、10段階で5.4の結果。離職率の減少対策に務めるために実施しております。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

4 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）及び整形外科疾患を中心とした急性期医療の提供体制を維持していく。また、呼吸器疾患への対応の充実も計画中で、専門医の確保を検討中である。

救急医療につきましては、1-④で記載致しました通り、二次救急医療の提供体制の維持をしていく。

東京都災害拠点病院としての災害時における医療提供体制もスキル向上に努めて、維持をしていく。

② 今後持つべき病床機能

現在の418床のうちの回復期44床は、平成31年度を計画に同一法人の別病院へ機能を移し、高度急性期11床及び急性期407床（一般7対1入院基本料）の急性期医療に特化した医療提供を計画中である。尚、回復期機能の移転は、同一法人の別病院の新病棟が完成後の予定。

③ その他見直すべき点

診療報酬改定に沿った、経営計画とコスト意識。

少子高齢化における社会保障費・医療費問題は、直接、経営に影響を受けてしまいます。地域のニーズを担保しながらの健全経営は、将来的には、大変な努力が必要となると考えられます。民間病院の赤字経営は、その病院の死活となってしまいます。



【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	11	→	11
急性期	363		407
回復期	44		0
慢性期	0		0
(合計)	418		418

※上記理由は、前頁の2-②に計画案を記載。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	合意形成に向けた協議  同一法人の別病院に係る 事前相談及び開設許可申請 等につきましては、東京都 医療安全課には確認済。	自施設の今後の病床のあり方を 決定 (本プラン策定)	集中的な検討を促進 2年間程度で
2018年度	同一法人の別病院の新病棟 新築着工予定	本プランの通り 整備計画策定	
2019～2020 年度	2019年度 同一法人の別病院の新病棟 完成予定・稼働	本プランの通り 自施設は、急性期機能に特化し 、同一法人の別病院新病棟にお いて、回復期、地域包括ケア、 緩和ケア等の亜急性期機能の提 供体制を行う。	第7期 介護保険 事業計画  第7次 医療計 画
2021～2023 年度			第8期 介護保険 事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>病床稼働率：90%</u></li> <li>・ <u>手術室稼働率：95%</u></li> </ul> <p><u>地域医療支援病院</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>紹介率：75%</u></li> <li>・ <u>逆紹介率：95%</u></li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>人件費率：60%</u></li> <li>・ <u>医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.5%</u></li> </ul> <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>看護職員離職率の減少：10%以下</u></li> </ul>
--

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

<p>江戸川区は、都内では近年人口増加傾向の区であり、若年層も増えてきている地域であります。1-①、1-②でも記載いたしましたが、区東部の医療圏の中でも、江戸川区は、大学病院や都立病院等の大規模な病院がない区であります。<u>将来的な行政計画におかれましては、地域的に大きな乖離が生じないようなご検討をよろしく</u> <u>お願い申し上げます。</u></p>
---